

持続可能な

社会の実現

〜広げよう長岡から〜

重点的に取り組む分野

- 環境分野
- 財政・経済分野
- 人間性(心)と教育の分野
- 政治改革の分野

SEKITAKA



せきたか通信 17号

はじめに



『平和な社会は、平和な心から』

— 米百俵のまちから始める

平和づくり—

最近、平和について考えさせられることが多くなってきました。

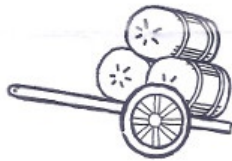
平和な社会は「争いが無い」のはもちろんのこと、「心地よい」とか「安心する」社会でもあるでしょうから、私の目指す持続可能な社会と同じようなイメージだと思います。

大多数の人が平和な世の中を願っているはずなのに、平和な世の中が実現しないのは不思議ですね。21世紀型価値観への転換として、「競争から共生へ」「戦争から平和へ」と言われていますが、「平和のために相手を粉砕しなくてはならない」と考えているならば、それは「独りよがりの一時的な平和」を追求しているに過ぎないのではないのでしょうか。

私は、平和な社会を実現するための前提条件として、一人ひとりの心が平和になる必要があると考

えます。社会は人間の集合体なので、構成員の心が平和になれば社会は平和になりますが、構成員の心が平和でないのに社会が平和になることは考えにくいのです。

平和な心とは、怒り・憎しみ・争い・不安などの感情的な動揺がない心です。感情的動揺があると、どうしてもその感情に支配された言動になってしまうので、全くないのが理想でしょうが、これらを小さくして、心の平和度をできるだけ高めることが必要になります。また、平和というと、「国家間や民族間の紛争がない」という大きな範囲の平和を思い浮かべますが、家庭や地域や組織内での小さい範囲の平和にも目を向ける必要があります。小さい平和が実現できないところに、大きい平和はないと思うのです。



心の平和度が低い状態で平和を追求すると、自らに感情的動揺を与える相手を排除する方法を選択しがちになるものです。そして、この方法では感情的動揺の連鎖が生まれ、目先の問題解決が次の問題を生むだけで、真

の平和は実現しないでしょう。平和な心を持った人だけが平和を実現する可能性を持つのだと思います。米百俵で有名な小林虎三郎の

「国が興るのも、滅びるのも、まちが栄えるのも、衰えるのも、ことごとく人にある」との思想とも共通するものがあると思います。

さて、では平和な心はどのように作ればよいのでしょうか。まずは、自分の心を見つめて、心の平和度を認識することが必要だと思います。そして、感情的に動揺する場合があったら、その原因を探りま

す。人間の反応は、まず目や耳で何かを見たり聞いたりする感知から始まります。そして、見たり聞いたりしたことに対し、損・得、正・誤、快・不快、好き・嫌い、○・×などの意味を与えて判断しますが、この時には何らかの判断基準(欲求や願望を含む)が存在します。その次に、判断の段階で○だった場合は喜怒哀楽で言えば喜楽が、×だった場合は怒哀といった感情が現れます。そして、最終的な言動(反応)は、感情の影響を受けることになります。

人間は、感知↓判断↓感情↓言動(反応)を無意識・自動的・瞬時に行っていることがほとんどなので、心の反応過程を意識して見つめると意外な発見や効果があります。例えば、自分の判断基準を冷静に吟味し修正すると、当然に感情の現れ方が変わります。また、判断と感情を切り離す努力を続けることで、感情に支配されることが少なくなります。このようにして自らの心の中に平和を形

成しなくてはならないと思うのです（私も努力中です）。

「戦争反対」「平和な社会を」と大きな平和を主張することは大きなことですが、着眼大局・着手小局で自らの心の平和や小さい平和の実現にも同時に取り組む必要がありまずし、そこに希望や確かな前進を見出すことができると思います。小さいことと大きいことはつながっていますから、平和も、そして今回は触れませんでした。が民主主義も、その実現には一人ひとりの内面に関する絶え間ない努力が必要で、長岡市はこの努力を始めにふさわしいまちだと思っております。



1 平成26年 6月議会

一般質問 要旨

●子どもの自己肯定感の醸成について

関たかし 質問



子どもは未来への希望であり、子どもが幸福感を持ち健全に成長できる社会は、大人にとっても心地よいものであり、その社会の未来は明るいものとなる。

近年、子どもの自己肯定感が注

目されている。自己肯定感とは「自分の命そのもの、存在そのものに価値がある。生きていていいのだ」という感覚で、自尊感情とほぼ同義である。何かができる・できないという能力の有無や、他人との比較とは関係ないものであって、うぬぼれ・自己中心的な自己愛ではなく、健全な自己愛なので、肯定感が高まっても威張るようなことはない。

自己肯定感が注目されている理由は、自信や意欲、コミュニケーション能力、落着き、不安感などの、現代の子供や若者を取り巻く様々な課題との関連が指摘されているからである。また、自己肯定感が低い状態で、勉強やしつけを教えてもうまくいかないと言われる。私は、自己肯定感を生きる力の源泉であると考えている。自己肯定感及びその獲得過程を、どのように認識しているか？



子育て支援部長 答弁

自己肯定感とは、自分は存在価値がある、私は大切な人間だ、生きていていいのだという気持ちで、人として生きていくうえで最も大切なものであると認識している。

そしてこれは、親から抱っこされたり、笑いかけられたり、話しかけられるなどして無条件に愛情を注がれることで、自分は大切にされている・大切にされる価値があるという気持ちが生え、自己肯定感の根っこが育まれると考えている。



●子どもと関わる大人の自己肯定感について

関たかし 質問

無条件に子どもの存在を受け入れる必要性については私も同感。注意・指導する場合も、存在を受け入れたうえで愛情を持って叱るか、感情に任せて怒ることによって存在を否定するのかわによって大きな違いが生じる。つまり、子どもが高い自己肯定感を持てるかどうかは、子どもと関わる大人の問題である。親自身の自己肯定感が高くない場合は子供と向き合う心の余裕がなくなると思われる。また、現代の大人の自尊心も傷ついており、それが子どもに影響しているとの指摘もあるので、大人の肯定感を高める必要が生じている。

大人の自己肯定感、自らを見つめることにより自己理解を深めることで高められると考える。保護者・保育士・教師などの子ども

と関わる大人の肯定感の醸成についての考えは？

子育て支援部長 答弁

子どもに係わる大人の自己肯定感を高めていくことは必要。市では、子どもに最も身近な保護者に対して、完璧な親はいない、私は私でいいんだ、この子はこの子でいいんだと思えるような子育てセミナーなどを毎年開催しており、高い効果がある。子どもと関わる大人に対して、自己理解の機会を提供することは重要なので、取り組んでいきたい。

●柏崎刈羽原発の再稼働問題について

関たかし 質問

安倍総理は「世界で最も厳しいレベルの新基準で審査し、安全だと判断された原発は再稼働する」と発言している。

しかし、審査する原子力規制委員会の田中委員長は「新基準に適合しているかを判断するのであって、安全であると認めるものではない」と発言しており、『安全』



が曖昧なまま原発が再稼働する状況である。

福島原発事故を受けて設置された国会事故調査委員会の報告書には「東電の自律性と責任感希薄で規制を骨抜きにする試みを続けてきた。また、東電にとつてのリスクとは周辺住民の健康被害ではなく、炉の停止や訴訟といった経営面であり。事業者としての資格を疑う」「規制当局は事業者の虜で



議会での議論の様子

監視監督機能は崩壊しており、国民の安全を守るには程遠いレベルであった」「規制当局と東電は事故前に何度も対策を立てるチャンスがあったが意図的な先送りや不作為、あるいは自己の組織に都合の良い判断を行ったことから今回の事故は人災である」「人を入れ替え、

組織名称を変えるだけでは再発防止は不可能」と記述されている。また、民間事故調の報告書は「規制官庁は理念も能力も人材も乏しい」とし、「事故後の対応も人災ではないか」としている。これらのことから、組織風土や安全文化といった観点も重要なので、再稼働に当たっては東京電力や国の規制当局がともにマネジメントされているのかという判断も行うべきと考える。

原子力・防災統括監 答弁

事業者体質や国の事故対応の問題は大切な指摘である。しかし、市が組織の在り方を評価するには、伝わってくる情報だけでは判断できないので、それなりの権限が必要になることから、他の組織の評価は市の業務としてなじまない。事業者の組織の在り方は、まず国が指導すべき。

●安全協定について

関たかし 質問



長岡市が東京電力との間で、平成24年に通報連絡協定、翌25年には現行の安全協定を結んだことは評価しているが、市は更に原発と

強く関わる必要があると考える。原発に関する計画等の事前了解や、原発への立ち入り調査と適正な措置要求が可能となる立地自治体並みの安全協定を締結する必要があると考えるがどうか。

原子力安全対策室長 答弁

立地自治体並み協定の研究は継続するが、現段階では以下の理由で必要なしと考える。

- ①安全協定は紳士協定であり法的根拠はない。また、立地自治体並み協定にも、定期検査後の再稼働についての了承規定はないし、原発の周辺自治体が立地並協定を締結した事例はない。
- ②立地自治体（新潟県、柏崎市、刈羽村）と連携できている。
- ③現行協定の実績を重ねているところである。

関たかし 質問

再稼働を目指す東電が立地自治体の意向を



確認し、緊密に連絡をとっているのは立地自治体が東電と締結している協定の存在が大きいのではないか。

原子力安全対策室長 答弁

国・県・事業者は再稼働の了承は法律でも安全協定に基づくものでもなく、社会的判断としている。

2 議会活性化

議会の活性化や改革には多くの課題がありますが、長岡市議会では取組が始まったものもありますので、一部を紹介します。

①一般質問における

一問一答方式



本会議での質問方式は「一括質問・一括答弁（いくつもの質問を一度に聞いて、いくつもの答弁を一度に答える）、時間制限はないが再質問は2回まで」でしたが、「一問一答方式で制限時間60分」も選択できることになりました。私は、これまで一問一答方式で2回の質問を行い、少し慣れてきたところで、また、細かく何度もやり取りをするので議論はしやすいのですが、本書において質問や答弁の要旨をまとめる時には苦勞しています（笑）。



② 少子・高齢対策

特別委員会



長岡市議会には4つの常任委員会と4つの特別委員会があり、議員は常任委員会と特別委員会に1つずつ所属します。これまでの特別委員会は、所管する分野における行政の取組状況を聞いて、それに対し委員が個々に議論する形態でしたが、委員



委員会での議論の様子

同士が議論をして、積極的に政策提言を行う形態になります。

私が所属する少子・高齢対策特別委員会では、平成25年度に「男女の結びつき支援」について市に提言しました。この中には、私を含めた数人の議員が主張した「パートナーを求め人が、コミュニケーション能力をより高めたり、より自己を成長させること」によって目的が達成できるような支援（人材育成の視点）が盛り込まれています。

3

政務活動費

地方議会の政務活動費が注目されています。

長岡市議会では、議員の調査研究活動等に対して一人当たり年間 720,000 円 が支給されています。

支出内訳

- 調査研修費……152,680 円
行政管理講座、ガソリン代[Ⓐ]、越後長岡藤原塾
- 資料費……104,242 円
グリーンレポート（環境情報誌）、ワールドレポート（政治経済情報誌）オルタ（社会情報誌）、食品と暮らしの安全（生活情報誌）、消費者レポート（消費者情報誌）、地球村通信（環境情報誌）、ピコ通信（化学物質情報誌）、てんとう虫情報（農業情報誌）、書籍「実践交渉学」、書籍「自治体職員のための問題解決マネジメント」、書籍「入門 AHP」、書籍「問題解決の技法」、書籍「合意形成を目的としたコミュニケーション」
- 広報広聴費……210,089 円
活動報告書印刷費・郵送費[Ⓐ]、市政懇談会場費、ホームページ管理費[Ⓐ]
- 情報通信費…… 32,624 円
携帯電話料金[Ⓐ]、電話料金[Ⓐ]
- 事務費…… 11,783 円
宛名ラベル[Ⓐ]、プリンターインク[Ⓐ]、FAXインクリボン[Ⓐ]、コピー用紙[Ⓐ]、糊[Ⓐ]

※[Ⓐ]…政治活動や私用等の政務活動以外の支出分と明確に分割できないので、裁判の判例を基にした按分比率（総額の1/2、1/4、1/6）で支出したものと

合計…511,418 円

720,000 円 - 511,418 円 = 208,582 円を長岡市に返却



これでよし!

平成25年度 政務活動費

使途報告

私が初当選した16年前も問題となっていました。今日までの間、長岡市議会を含めて全国的に政務活動費の使途の適正化に努める議会が多かったと思います。しかし、最近次々と明らかに変わった不適切な実態を見て、「まだこの程度だったのか」「〇〇議会は何も改善してこなかったのか」と驚いています。私は政務活動費について、内容

を公表すること、無理に使い切らないこと、最新の支出基準を調査することで適正支出に努めてきましたが、これを今後も継続していきますし、長岡市議会においてもまだ改善の余地があると考えていますので、努力していきます。



お知らせ

▼市政懇談会

- 【日時】 毎月第3土曜日 午後7:00～9:00
- 【場所】 神明公民館（長岡市信濃2丁目）
- 【内容】 自由に意見を交換します。関たかしの市政報告のほか、テーマを設けたり、講師を招いた勉強会になることもあります。どなたでも参加できます。



▼出前報告

市政の出前報告も行っています。お一人でも伺います。

▼バックナンバー

ご希望の方に「せきたか通信」1から16号をお配りします。

発行 / 【関たかし事務所】

〒940-0098 長岡市信濃2丁目10番43号
TEL. 0258-32-0751
FAX. 0258-32-0756



【関たかし】

E-mail sekitaka@mail.mynet.ne.jp

ホームページ

<http://www.sekitaka.net/>

（YAHOOにて「関 貴志」で検索できます）